

令和4年度 安曇野市食育推進会議 会議概要（要約）

- 1 審議会名..... 安曇野市食育推進会議
- 2 日 時..... 令和4年10月19日 午後1時30分から午後3時10分まで
- 3 会 場..... 本庁舎 共用会議室307
- 4 出席者..... 本郷会長、堀内副会長、中村委員、阿部委員、片桐委員、山本委員、飯澤委員、
田島委員、嶋田委員、小杉委員、小林委員、柴田委員
- 5 市側出席者..... 吉田保健医療部長、渡邊健康推進課長、細田センター長、小松係長、伊藤管理栄養士
- 6 公開・非公開の別..... 公開
- 7 傍聴人..... 0人..... 記者..... 0人
- 8 会議概要作成年月日..... 令和4年10月24日

協 議 事 項 等

【会議の概要】

- 1 開 会
- 2 委員の委嘱
- 3 保健医療部長あいさつ
- 4 安曇野市食育推進会議条例について
- 5 会長・副会長選出
- 6 会長・副会長あいさつ
- 7 協議事項
 - (1) 令和3年度食育推進事業実績および進捗状況について
 - (2) 第3次食育推進計画目標達成のための意見交換
 - (3) その他
 - ・小中学生血液検査実施後の健康相談事業について
 - ・食環境整備について
- 8 閉会

【協議概要】

- (1) 令和3年度食育推進事業実績および進捗状況について
(事務局) 資料-1に基づき令和3年度食育推進事業実績および進捗状況について説明。
(委 員) 学校給食食材の地元産率について各給食センター別で教えてほしい。
(事務局) 北部給食センター46%、堀金給食センター29%、南部給食センター26.9%、中部給食センター30.9%となっている。
(委 員) 北部給食センターだけかなり多いのはなぜか。
(委 員) 全センター同じことだが、地元産率は時季により変動がある。生産者とはそれぞれの時季に何が一番とれるのか綿密に連絡を取り合いながらやっているが、給食献立は2～3ヶ月前に立てているため天候等により生産量が左右される。いざ使用する時になって断られるということもある。今回の北部給食センターに関してはその条件が合ったのではないか。
(会 長) コロナ禍で中止になった事業も多かったようだがそれぞれかなり頑張っている印象がある。Webの活用等今後は何を工夫すればできるのか考えていってもらいたい。
- (2) 第3次食育推進計画目標達成のための意見交換
(事務局) 資料-2に基づき安曇野市の健全な食を考える（令和元年度データ）について説明。食育庁内検討委員会にて出された意見を報告。
(委 員) 子どもだけの朝食の割合が進級とともに増えているが、これは保護者が用意したものを食べているのか、それとも自分で用意して食べている状況なのか。
(事務局) 自分で作るというよりは用意されたものを食べているのではないかと思う。

(委員)「主食・主菜・副菜の揃った朝食を食べている」の項目は良い結果だと思うが、この数値に対し今後どのように働きかけていくのか。保護者が気づかなければ改善にはつながらないと思う。

(委員)「お弁当の日」の取組において各学校で教育しているのではないと思う。認定こども園では子ども達から保護者へ情報が伝わるような食育も行っている。

(委員)食育に携わる中で保護者より子ども達に教育した方が早いという部分は共感する。また、給食については女子が残すことが多い様子。食べられないのではなくスマホの普及により様々な情報から痩せ型思考に陥っている。中学2年生は体作りが大切な時期。現場に近い活動を要望する。

(会長)より効果的な指導や啓発をするにはどうしていけばいいか。

(委員)高齢者については、コロナ感染拡大により外出の機会が減り食事にも問題が出てくる。フレイルに陥った高齢者は外にも出なくなるため、訪問指導も必要になる。栄養士会ではコンビニで買えるものでたんぱく質をプラスするといったキャンペーンなどを行った。高齢者にはより具体的なアドバイスが必要。栄養士会も市と一緒にできればと考えている。

小学生ではコロナ感染拡大の影響により運動ができず、それにより太ってしまう児童、逆に食べなくなりやせてしまう児童もいる。また、中高生ではSNSで「シンデレラ体重(BMI18で計算される値)」という言葉が話題になっている。偏った情報が広がっている中で、訂正する情報も同様の情報量で発信していかなければならないと思う。

(会長)学校現場の状況は養護教諭が一番分かっていると思う。今の時代に沿った指導ができれば良い。10代20代をどのように導いていくのかは非常に難しいところではあるが、学校では今何が起きているのか、市と学校で情報共有できれば良い。

(委員)中学校の保健室に来る生徒の多くは、朝ご飯を食べてきている。しかし部活があると朝も早いため、子どもだけで食べる状況になるのではないと思う。また、給食は小学校より量が増えるため、特に女子の場合は多くて食べられないこともある。だんだんに食べられる量が増えていけばいいのではないか。また、生徒会が行う残食ゼロについては食べられる生徒だけ食べるようになってしまうため、反対に食べすぎが心配になる。「お弁当の日」では、自分で作ってくる子もいるが難しい子は作られたものを入れてくる等、それぞれができることからやっている。給食も今は黙食なので食べる楽しみも薄れてきている。楽しく食べることができれば食事の進み具合も変わってくるのではないか。

(3) その他

・小中学生血液検査実施後の健康相談事業について

(事務局)資料-3に基づき小中学生血液検査実施後の健康相談事業について説明。

(委員)血液検査は全員ではなく希望者だけに実施した。

(事務局)血液検査については希望者のみ、健康相談についてはさらに検査結果を健康推進課に提供することに同意を得られた方のみ実施する。

(委員)意識の差は生まれないか。無関心層が取りこぼされないか心配。強制できないとは思いますが、対策も必要かと思う。

(委員)安曇野市でHbA1cだけが取り出されたのはなぜか。また、子ども達や保護者もなぜこの検査をするのか、なぜ保健指導をするのか考えていないのではと思う。将来につながるのであれば、血液検査の在り方ももう少し考えていかなければならないと思う。

(会長)松本市の中学2年生を対象にした血液検査でも一般の血液検査に加え尿酸、HbA1cも実施している。HbA1cや尿酸が高いと動脈硬化になりやすい。また、長野県の中高年の男性は全国でも血糖が高い。安曇野市にも10年ほど前に相談を受け、その当初はHbA1c高値の人が60%、正常値の人が40%だった。対策をする中でこれが50:50になった。これはすごいこと。大人でうまくいったので、子どもでもいい方向に向かえばよい。検査とともに生活指導を一緒にやるということが重要。長野県は健康県と言われている中で、こういったデータを集めどういう方向に指導し、解決していくか、非常に有意義なことだと思う。全国でも特に都会では保護者の抗議が多くこういった血液検査はできていない。

・食環境整備について

(事務局) 資料－４に基づき食環境整備について説明。

(委員) 飲食店や調理師会にもご協力いただくことが食環境整備には大きい。池田町では飲食店で減塩に取り組むと「減塩応援店」と町で認定され、それをリーフレットにまとめたものを全戸配布している。一歩踏み込んだ取り組みを市でもできるといいのではないか。

(会長) 県内小中学校でSATシステムにより食育を行った。その際生徒に朝食で体にいいと思う食事の例を選んでもらおうと、塩分だけが多くなる。これは家庭の食事の塩分が多いということ。家庭に対する教育をしていかなければならない。何年も前から学校で養護教諭の先生や栄養士会と食育をやってきたが、個人の努力だけで浸透させるのは難しい。継続的に自治体でやってもらえるとよい。

(委員) 3つの星レストランについて、安曇野市では他の圏域より登録数が多い。りんごナポリタンのようなご当地メニューを使ったヘルシーバージョンもある。調理師会や商工会含め市と連携していければと思う。

※会議概要は、原則として公開します。